

主権者教育を推進する群馬県大学コンソーシアムに所属する学生チームは、今年度2つのインタビュー活動を行いました。今後4回にかけて、学生が作成したインタビュー記事を紹介していきます！

### 県職員インタビュー

各グループごとに興味のある県の施策を考え、その分野を担当する県庁職員にインタビューを行い、その後記事にまとめました。


### 県議会議員インタビュー

県職員インタビューの経験も踏まえ、群馬県議会議員に議会の役割や議員の仕事についてインタビューを行い、その後記事にまとめました。



◎第1回は「地域創生」についてインタビューを行った、「Aグループ」の記事を紹介します！

### 県内市町村の選挙情報

選挙の種類	告示日	投票日	関連QRコード
高山村長選挙	3月17日（火）	3月22日（日）	

「インタビューした人」

矢野英司 県議

【担当】

高崎経済大学 三年 内山羽純  
高崎経済大学 二年 秋山瑞葉  
群馬県立女子大学 三年 福島理紗



Q 何故、県議会議員になろうと思いましたが？

青年会議所で活動していた頃、阪神淡路大震災や、中越地震、東日本大震災などで復興支援のボランティアに参加したことがきっかけです。

そこで全国からの物資の仕分け問題などに直面

したことで政治の役割の重要性に気付き、ルールを作ったり、助け合いながら、人の役に立ちたいと思うようになりました。

Q 県議会議員の活動において最も大変な仕事は何ですか？

地域とつながりを持つ中で、コロナや台風十九号など、前例がないことに直面した際の対処法がわからず、そこが大変な仕事だと感じました。前もっての準備が大切なので、常に「県民のため」を心がけるようにしています。

Q 県議会議員になって良かったと思うエピソードはありますか？

私は富岡で生まれ育ったこともあり、富岡製糸場が世界遺産になったことが大きなターニングポイントでした。富岡製糸場がシンボルになるまでには、多くの方々が携わってみんなで残しているという思いがあり、記憶に残っています。

Q 県議会議員として、実現させたいと考えている政策はありますか？

観光、企業誘致、産業構造の再確立です。特にデジタルクリエイティブ産業は、日本の最先端を目指し、ツクルンやツーモグンマなど複数の事業を行っています。

Q 県議会議員として信頼を得るために日々大切にしている心構えなどはありますか？

どんなに小さなことであっても、まずは県民の皆様の意見を聞くことが大切だと思っています。実際に自分の足で出向き、自分の目で状況を確かめ、スピード感をもって接していくことが心掛けています。

日々の活動で大切にしていることは、第一に

「絶対にウソをつかないこと」、第二に「約束を必ず守ること」、第三に「行動で示すこと」です。また、その人のためにならないことについてははっきり言うことや、きちんと断る勇氣を持つことも大切だと思っています。

Q 人の視線を集める立場ですが、そのような状況にどのように向き合っていますか？

どのような場面でも常に県議会議員としての自覚をもって生活するようにしています。人と接する際には、もちろん緊張することもありますが、平穏な気持ちを保ち、できるだけ自然体でいることを心がけています。

Q 群馬県が一番好きなところはどこですか？

群馬県の自然が好きです。草津、伊香保、四万、みなかみ、万座など、豊富な温泉があるだけでなく、それ以外にも、上毛三山や、富岡製糸場があり、歴史と自然が調和した素晴らしい県だと感じています。

Q 群馬県が抱える一番の課題はなんですか？

最も大きな課題は人口減少だと感じています。それに加え、山間部では地域格差、子育て・教育環境、医療、デジタル化などの課題もあります。

Q 人口減少が進んでいく中で、ＩＴターンやＵターンのような人口増加を目指す政策と、少ない人口でも持続可能な社会を作ることのどちらが大切だとお考えですか？

人口減少社会においては、少ない人口で持続可能な社会をつくるのが重要です。一方で群馬県としては、ＩターンやＵターンで群馬県内に人を呼び込み、県内の定住を促進することにも取り組んでいく必要があると考えています。

Q 山間部の交通の利便性を高めるための独自の政策はありますか？

公共交通機関で使用できる「GunMaas」という政策を始めています。また、交通機関に行くのも大変な人々が買い物に行けるよう、各自治体で自転車の利用や、移動販売車の活用を推進しています。

その他にも、仕事ができる環境として魅力を感じてもらえる群馬を目指し、山間部で空き家を利したテレワークを推進していくことも提案しています。

Q 子育てと仕事が両立できる環境づくりにあたって、現状の課題は何ですか？

企業ごとにルールや文化が異なる点です。子育てと仕事の両立が難しいと考えている企業に対して、その企業に合った仕組みを提案する際には難しさを感じるがあります。

Q SNSの利用による選挙啓発等は社会に良い影響を与えたと思いますか？

SNSによって多くの人が政治に興味を持つようになったことは良い影響だと思います。ただし、SNSの利用には十分な注意が必要で、発信する内容に対してある程度の線引きも必要だと思います。

### 「編集後記」インタビューを終えて

私は、今回のインタビューを経て、就職活動や今後の学生生活において活かしていきたいと感じました。就職活動においては、緊張する場面などで、県議会議員の方が普段どのように緊張に対応しているかなどを聴くことができ、私自身も緊張にうまく対応していきたいと感じました。大学生

活では、政治学を主に勉強していますが、今回の議員インタビューは、その学びを深める観点でも非常に良い経験となりました。また、地域活性化などの観点においても様々なことを聴くことができたので、今後の学びに活かしていきたいと感じました。(内山羽純)

今回、矢野県議にインタビューを行わせていただき、県議会議員に対する印象が大きく変わりました。思っていた以上に親しみやすく、身近な存在であると感じられたからです。県議会議員という立場ならではの貴重な考えや経験を伺うことができ、このインタビューで得られた言葉の数々は、自身の今後をより良いものにするための励みになりました。非常に貴重な機会でした。(秋山瑞葉)

このような機会をいただいたのは初めてだったので、私にとつても新鮮で貴重な経験となりました。お話を伺う中で、群馬県のためにこんなにも多くのことを考え、課題に対しても真剣に向き合っているのだと感じ、感銘を受けました。私自身も群馬県が大好きなので、新しい政策や今後の展望についてのお話を聞きながら、群馬県の未来に対してワクワクした気持ちを抱くことができました。同時に、県議会議員としての姿勢はもちろん、人としても見習いたいと感じました。(福島理紗)

## 群馬県の地域創生について

### Aグループ

「インタビュー先」

地域創生部地域創生課 地域支援・過疎係

「担当職員」

横山主事、岡田主事、森田主事

「インタビュー者」

高崎経済大学 三年 内山羽純

高崎経済大学 二年 伊澤音衣

高崎経済大学 二年 秋山瑞葉

群馬医療福祉大学 三年 村山大翼



Q 群馬県の発展のために個人としてできることは何だと思えますか？

県発展のために重要なのは、まず県民自身が地域の魅力を知り、好きになることだと思います。地域イベントへの参加やSNSでの情報発信など、小さな行動でも地域活性化につながる可能性ががあります。また、地域づくり団体への参加などを通して主体的に関わることも重要だと考えています。

Q 持続可能な地域を作るためにはどのような行政の制度や地域特性を活かした活動が必要だと思いますか？

日本では人口減少が進んでおり、人口が増えているのはほぼ東京都だけです。そのため、地方が東京と同じ発展を目指すのは現実的ではなく、人口の奪い合いになる可能性があります。そこで群馬県は、人口を無理に増やすのではなく、人口が減っても地域が成り立つ仕組みづくりを重視しています。そのために、総務省の「地域の未来予測」等を活用し、二千五十年までの人口や医療需要などをデータで示すことを検討しています。こうした将来予測をもとに、市町村、地域住民とともに医療体制やインフラ整備の見直しを進め、持続可能な地域づくりに繋げることを目指しています。

Q ぐんま推しナンバープレートの寄付金は、実際どのような交通サービスの改善、観光振興

へと充てられているのでしょうか。

令和五年十月から導入されたぐんま推しナンバープレートは、「走る広告塔」として群馬県の魅力を発信する役割を担っていますが、その寄付金は観光振興や交通安全対策などに活用される予定であり、観光マップの作成や啓発ポスターの制作などが検討されています。県民一人ひとりが県のPRに関わることが出来る仕組みとなっているのが特徴です。

Q 過疎地域いきいき集落づくり支援事業で対象とされていた十七市町村それぞれで様々な採択事業をされているが、実際に県が支援を行っている手応えを感じた事業はありましたか。

群馬県では「過疎地域いきいき集落づくり支援事業」を実施し、最大三年間の支援を行っています。これまで様々なイベント等に活用していただきましたが、特に伊香保石段街で開催される「伊香保アカペラストアーズ」は特徴的だと思います。このイベントは県の補助を活用して規模を拡大し、来場者が千人を超えるなど、観光振興に寄与している点が魅力的です。補助金はあくまでスタート支援であり、最終的には自走できる体制を目指している点がこの制度の趣旨になります。

Q 過剰な地域支援によってほかの地域との格差などが生まれないように心掛けていることはありますか。

「過疎地域」は国の法律に基づき、人口減少率や財政状況などの要件を満たす自治体が指定されています。指定されると「過疎債」という有利な地方債を活用でき、インフラ整備などに充てることが可能になります。しかし、法改正により指定から外れる「卒業団体」も存在します。移行期間は設けられているものの、将来的には過疎債が使えなくなるため、各自治体はそれを見越した地域運営を検討しています。例えば、嬬恋村では、移住促進や地域おこし協力隊の活用に入力を入れ、将来に備えた取り組みを進めています。

Q 群馬県職員としての働き方について教えてください。

県職員は希望する部署に必ず配属されるわけではなく、人事配置によって異動が決まります。地域創生課の特徴は、実際に過疎地域や山間部へ足を運ぶ機会が多い点です。市町村職員や地域団体との連携も多く、広域的な視点で業務に携わることが求められます。

Q 群馬県の魅力は何だと思いますか？

群馬県は東京からのアクセスが良く、自然環境に恵まれています。また、災害が少なく物価も比較的安いことから、子育て環境としても魅力があるとされています。さらに歴史的資源も豊富で、地域ごとに特色ある文化や観光資源を有しているところも魅力だと思います。

Q 群馬県職員を目指す学生へのアドバイスはありますか。

群馬県職員を目指すのであれば、まず群馬県のことをよく知ることが大切だと思います。実際に地域を訪れ、道の駅や観光地を巡ることで、その土地の雰囲気や課題を肌で感じるることができます。地域を知ることが、将来地域を支える立場になるための基礎となると思います。

#### 「編集後記」インタビューを終えて

今回のインタビューを通して、群馬県の発展への向き合い方が大きく変わりました。これまでは地域の発展に人口増加だと考えていましたが、実際には人口が減っても持続できる仕組みづくりが重要であると学びました。特に、将来予測データを基に地域の在り方を考える姿勢が印象的でした。行政だけでなく、地域に住む一人ひとりの関わりも大切であることを知り、これからは自分ができることを考えていきたいと思っています。

(内山・伊澤・秋山・村山)

(実施日：令和七年九月月十七日)